

氏名	磯田 義博
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第806号
学位授与の日付	昭和51年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	尿中低濃度 estrogen 簡易測定法 (E ₃ -Kit 変法)の開発およびその臨床応用について
論文審査委員	教授 関場 香 教授 田中早苗 教授 水原舜爾

学位論文内容の要旨

- I) 近年外科的疾患の診断及び治療に関連して estrogen測定の必要性が高まってきた。しかし従来行われている測定方法は操作が繁雑である為、一般の臨床に応用し難い欠点がある。そこで妊婦などの高濃度尿中 estrogen の簡易測定法である E₃-Kit法を応用して、非妊婦や正常男子の尿中 estrogen を測定する簡易法を考案した。本法は夜間尿を検体とし、尿中のestrogen を合成樹脂製吸着剤であるamberlite XAD-2 に吸着させ、methanol で抽出した後、methanol を蒸散せしめてestrogenの濃縮された水溶液とし、これを従来の E₃-Kit法で測定するものである。但し尿中色素も同時に濃縮して Kober 発色に干渉するので、amberlite XAD-2 への吸着と、methanol での抽出を2回繰り返すことにより脱色する必要がある。本法によって 5^{μg}/9hrs. (夜間) 以上の尿中 estrogen を測定することができる。また本症における標準曲線を求めると相関係数は 0.998で高度の精度が認められた。さらに同一検体を本法及び Brown 蛍光法で測定したそれぞれの値の相関係数は 0.763 ほど満足のいく結果であった。
- II) 本法を用いて種々の疾患の尿中 estrogen 排泄量を正常者と比較したところ、次の如き知見が得られた。
- 1) 大動脈炎症候群：有経の本症患者は一月経周期を通じて低値の傾向にあった。
 - 2) 閉塞性動脈硬化症および Buerger病：両疾患々者共に高値の傾向があった。特に年齢が長ずるに従いこの傾向が強かった。
 - 3) 乳癌：閉経後5年以内の乳癌患者は低値の傾向にあった。

論文審査の結果の要旨

本研究は従来繁雑な操作を要求されていた尿中エストロゲンの定量を簡易化し、実際の臨床応用を容易にしたものであり、臨床応用例に於ても十分に役立つものである事を実証したものであるとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。